

## カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科社会福祉専攻)

○令和5年度の後期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIO との整合性、カリキュラムの問題点等)

### ① 成果

- ・コロナ禍で制限が厳しくなっていた実習施設・機関の対応や制限も緩和されたことにより、ソーシャルワーク実習の日数延長にも対応した実習教育が実施できた。
- ・少人数教育の利点を生かし、学科専攻がまたがる科目については、適切にオンデマンドや課題提出型の授業を組み合わせ、ディプロマ・ポリシーに応じた教育をおおむね提供することができた。
- ・各教員が、学科のディプロマ・ポリシーを意識した教育内容を展開するために、各教科の課題を抽出し授業改善を行っている。
- ・保育士資格に関する教育と合わせてソーシャルワーク教育を実施することにより、現代家族の抱える種々の問題に対する包括的なアプローチの必要性について、学生の理解が深まっていることを、ソーシャルワーク演習科目の中で確認している。

### ② 課題

- ・高齢者福祉論の実施時期や実施方法について検討が必要である。
- ・ソーシャルワークの理論編とソーシャルワーク演習、及びソーシャルワーク実習の関連付けを再検討する必要がある。
- ・非常勤講師に対し、社会福祉学に基づく保育の学びについて、本専攻のディプロマ・ポリシーの丁寧な説明が必要である。
- ・社会福祉士の役割は、社会の中で個人や家族が直面する困難を支援するため、ソーシャルワーク、社会保障、心理学、法律、医療など多岐にわたる分野の知識が求められる。二年間で学ぶためには、カリキュラムの進捗について検討するだけでなく、教授方法に工夫する必要がある。

### ③ その他・今後の検討事項など

- ・ソーシャルワーカーの職責を考えたときに、「ゆりかごから墓場まで」の考えに基づき児童から高齢者まで幅広く関心が持てるカリキュラムの進捗を検討する必要がある
- ・短大で社会福祉士養成に必要な質の高い教育を短期間で提供することは大きな挑戦であるが、引き続き、ソーシャルワーク実習と座学での学びの連続性の確保など可能な改革を進めていく。